

HIV/AIDS の分野における中国とのネットワーキング

Networking with China in the field of HIV/AIDS

阿古智子（学習院女子大学）

Tomoko Ako (Gakushuin Women's College)

中国では血液管理の不備によって 1990 年代に HIV（エイズウイルス）に感染する者が急増した。この頃、他の多くの国では、輸入製剤による HIV 感染拡大を受け、すでに自国で血液を供給する体制に転換していた。中国も国内で供給する体制を取っていたが、全国的に検査を徹底するシステムを整えておらず、無償献血も普及しなかったため、不衛生な環境で商業的な血液売買が横行した。

日本を含む国々が経験してきた血液管理の失敗を教訓に、早急に対策を取っていれば、中国がこれほど深刻な事態に陥ることは避けられたはずである。また、近年、感染被害者による訴訟が増えているが、法律や制度が十分に整備されておらず、社会不安を煽る結果となるケースも出て来ている。

日本を含むさまざまな国が経験してきたことであるが、エイズに関わる訴訟は、膨大な費用と時間を伴い、感染者にとっても国や社会にとっても、非常に大きな負担を強いる。現在中国には、多数の法律援助を行う市民団体や政府系組織が活動しているが、情報や専門知識が不足しており、特に人材を育成する上で支障を来している。この分野における法整備・制度建設や人材育成に関して協力を進めたいという考えから、昨年 11 月にシンポジウムとワークショップを開催した（添付資料）。

今後の展開について、現時点で議論しているのは、以下のような内容である。

① 講演会・研究会の開催

日本の弁護士、専門家、社会運動家、教育者、マスコミ関係者などを中国に招き、講演会やサロン形式の研究会を企画する。その他、アジアエイズ会議（2009 年はバリ島で開催）でアジア各国の NGO と合同でサテライト会議を組織することを計画中。

② 書籍の出版

シンポジウムをベースとした書籍、或いは日本の薬害エイズなどの経験をまとめた書籍を翻訳することを考えている（国連エイズ計画（UNAIDS）の中国事務所と翻訳費用に関して折衝中。一般読者向けの本と薬害エイズ訴訟などに関する専門的な本の 2 タイプを考えている）

③ ウェブサイトの開設

エイズや関連の社会問題に取り組む日本と中国の NGO が中心になって、日本語・中国語のウェブサイトを開設する（翻訳作業は日本・中国の学生たちが行う）。シンポジウムの論文集や専門家による講義記録を掲載する他、各 NGO の活動内容やイベント情報を紹介する。日本・中国におけるエイズ関連情報や意見交換を行う機能も順次設け

ていく。現在、NGO・東珍が、NPP (New Philanthropy Partners: <http://www.nppcn.com/>) のウェブサイトスペースを設ける形で試行版を製作中であり、春までに基本的なデザインを完成させる予定。NPP はマッキンゼー・中国代表の陳宇延氏らが立ち上げた公益事業を目的とする組織のネットワーク化を図るグループ。特に中国の NGO のデータベースの構築に力を入れている。

④血液事業

安全な血液を確保することが人間にとって如何に大切なことであるかを、血液教育や献血事業の推進を通して、伝えていく。はばたき福祉事業団が作成した血液の絵本を中国語に翻訳して配布する他、献血推進用のマスコット人形などを使い、中国国内の学校や地域の集会所で献血推進・感染症予防の活動を行う。活動の主体は学生ボランティアが担うことを想定している。

⑤在日中国人、在中日本人に対する情報・支援の提供

日本・中国の NGO が連携し、在日中国人及び在中中国人のエイズ感染実態を把握し、必要とされる情報や支援を提供する(研究プロジェクトなどに応募することを検討中)。

⑥その他

訴訟を目指す感染被害者に対する法律援助や、情報や資金の不足する地域の感染者に対する抗ウイルス剤の配布や服薬指導、経済的に困難な感染者やその家族に対する就業・創業支援など、他にもやらなければならないことは多い。中国における帰国者・外国人を対象とした健康診断・エイズ検査の強制・入国制限の廃止や、抗ウイルス剤の輸入禁止解除を求める運動を支援しようとの声もある。こうした活動は、中国の政治情勢に配慮しつつ、実現可能性を見極めていく必要があると考えている。